

小牧市の分析まとめと 対策について【中学校】

令和4年10月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

本年度の分析にあたって

4月19日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、教科によるばらつきはありますが、県平均とほぼ同等の結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

今回は平成30年度から4年ぶりに理科の調査が行われました。その結果と指導改善のポイントについてもお知らせします。

各教科の結果から

国語

平均正答数は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。

「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域は全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。スピーチの場面で、聞き手の興味・関心などを考慮し、表現を工夫する問題が高い正答率でした。

「書くこと」の領域は、資料から必要な情報を引用し、根拠を明確にして書く問題の正答率が低く、課題が見られました。

「言語文化」や「言葉の特徴や使い方」の領域は、文脈に即して漢字を正しく書くことや心情を表す語句を理解することについて高い正答率となりました。その一方で、行書の特徴を理解することについて課題が見られました。

選択式や記述式などの問題形式に関係なく、無回答率が全国平均より高くなる傾向が見られ、問題に粘り強く取り組む姿勢に課題が残りました。

数学

平均正答数は、全国平均よりやや高く、県平均とほぼ同等の結果でした。

「数と式」の領域は、連立二元方程式を解く問題が高い正答率でした。その一方で、結論が成り立つ前提から、新たな事柄について説明する問題の正答率が低く、課題が見られました。

「図形」の領域は、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を書く問題が高い正答率でした。「データの活用」の領域には、県平均とほぼ同等の結果でした。確率の意味を理解し、表やグラフを基に正しいものを選ぶ問題が高い正答率でした。

「関数」の領域は、与えられた表やグラフを基に問題解決の方法を具体的に説明することに課題が見られました。

理由や解法を説明する記述式の問題では、無解答率が高くなる傾向が見られました。

理科

平均正答数は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。

実験において、変える条件と変えない条件を適切に設定し、計画する問題は高い正答率でした。また、動物の体のつくりとはたらきについて、その観察結果から考察する問題が概ねよくでき、全国平均をやや上回る問題もありました。

「エネルギー」の領域は、水素燃料のおおもとは何かを考える問題、力のはたらきについて、つり合う力を矢印で表す問題の正答率が低く、課題が見られました。

無解答率はほとんどの問題で全国平均・県平均と同等でした。粘り強く解答する姿勢が身に付いていません。

今後取り組む 指導改善のポイント

国語

- 「書くこと」の指導を充実させます。自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にするため、引用の目的や方法、その効果について考えるような指導を継続します。
- 「読むこと」について、表現技法や登場人物の心情を表す語句等を正確にとらえ、文学的な文章について、描写を基に場面の展開や心情の変化を読み味わうことができるような指導を工夫します。

理科

- 科学的に探究する学習を重視し、理科を学ぶ意義や有用性を実感できるような指導を継続します。また、実験や観察における考察の妥当性を高めるための計画を検討する力を伸ばすような指導を工夫します。
- 話し合い活動を充実させ、日常生活と関連付けて考える学習を繰り返し、理科的な見方・考え方を育成します。

数学

- 式や表、グラフなどから、必要な情報を適切に読み取る力を身に付けるとともに、問題解決のためにどのように用いるのかについて説明する力を伸ばすような指導を工夫します。
- 数学的に説明し、伝え合う活動を授業の中で充実させ、論理的に考察し、説明する力を身に付けるとともに、新たな事柄を見いだし説明することができるようにするための指導を工夫します。

全般

- 小牧市が長年取り組んでいる「学び合う学び」の授業は、学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化する一つの方法であると考えます。生徒同士の共感的・互恵的な人間関係を基にして、主体的に学ぶ姿勢を育てていきます。
- 考えを深めたり広げたりするために、自分の考えを工夫して伝えたり、相手の考えを聞く機会を大切にするとともに、一人一人の学びの様子を丁寧に見取り、個々のつまずきに寄り添うような指導を心がけます。

質問紙調査から

毎日同じくらいの時刻に寝ているか 肯定的 75.8%

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的 91.3%

朝食を毎日食べているか 肯定的 89.2%

全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での基本的な生活習慣は守られていることが分かります。

友達と協力するのは楽しいと思うか 肯定的 92.7%

人が困っているときは、進んで助けているか 肯定的 88.6%

全国平均に比べて、やや高いか同等の結果です。肯定的な回答が多く、学校生活において、望ましい人間関係を築くことができている様子が見受けられます。

いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか 肯定的 96.1%

全国平均と同等、県平均よりも高い値を示しています。規範意識を育むことを意識し、いじめの根絶に向けて、今後も取り組みを継続します。

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか 肯定的 77.6%

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか 肯定的 75.9%

肯定的に答えた生徒がいずれも、75%を上回りました。また、平成31年度、小6の同じ質問事項の回答よりも1～3ポイント高い結果となり、主体的に授業に取り組むことが継続されています。この質問に肯定的に回答した生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向にあります。

国語・数学・理科の勉強は大切だと思うか 肯定的 92.0%・83.2%・72.9%

国語・数学・理科の授業で学習したことは、将来役に立つと思うか 肯定的 88.0%・76.5%・57.2%

理科を学ぶことが実生活と結びつきにくいようです。指導改善のポイントにも示したように、日常生活と関連付けた学習活動など工夫をしていきます。

1、2年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか。 ほぼ毎日 53.6% 週3回以上 30.4%

意見を交換する場面で、ICT機器をどの程度使っているか ほぼ毎日 15.3% 週3回以上 28.8%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて2倍以上高く、また、意見を交換する場面での使用は、全国や県平均と比べて3倍以上高い値でした。学ぶツール、つながるツールとしてのICT機器の活用を進めます。

平日1日あたり、どれくらいの時間テレビゲームをするか。また、携帯やスマホでSNSや動画視聴などをするか。 1時間以上 73.6%・82.0%

携帯やスマホなどの使い方について、家の人と約束したことを守っているか。 肯定的 67.5%

小6と比較するとSNSや動画視聴をする割合が高くなります。利用方法、ルールについて家庭で話し合う機会を大切にいただけるとよいと思います。

学習態度・生活態度の状況